100年に一度の進化するまちの様子をお届け

長崎MIRAISM

誰もみたことのない未来図を、いっしょに描こう。

夜の展望フロア（19階）からは、まちの光が身近に感じられ、新たな夜景スポットになりました。

市役所がもっと身近に!

見どころ満載!
新庁舎のおすすめスポットをお届け

1月に開庁した新庁舎。これまで9つに分散していた旧庁舎を集約しました。身近な手続きを1階総合窓口に、子育て関係の窓口を2階のイーカオプラザにまとめるなど、手続きがスムーズになりました。

また、庁舎には新たに展望フロアや情報コーナーも。1階情報発信コーナーの「えっへん!NAGASAKI」「新旬NAGASAKI」では、市の魅力やニュースを知ることができます。

さらに、食堂も開放的な空間に。シェフが丹精こめてつくったランチをおいしくいただけます。

手続きで訪れた際は、ぜひ、いろんなスポットにお立ち寄りください。

問い合わせ　広報戦略室　☎829-1300

詳しくはホームページ・SNSをチェック!
長崎ミライズム

長崎Miraism
@MIRAISM3

市長のホッとトーク

（今月のテーマ）
古賀先生からのエール

『長崎市史・風俗編』は、長崎学の創始者である古賀十二郎先生による名著といわれています。その中に「長崎人気質」について書かれた部分があります。

それによると、鎖国以前の長崎は進取の気質にあふれ、海外に雄飛しようとする人たちであふれていました。しかし、鎖国になり、身分制度が固定化し、キリスト教も弾圧される時代が続くと気質は次第に変わり、商人たちは船を待つしかなくなりました。そして時の流れとともに長崎人は「人間味」に生きるようになりました。外国人を敬意をもって迎え、惜別の気持ちをもって別れるという独特の気質が育ったのです。

長崎人はこういう歴史の中で培われた人情に厚いという側面と、船を待つしかない時代が生んだ消極性という両面を持っている。人情の厚さは人生に最も大切なもので、それを新しい時代に活かせばいい。同時に、過去の制度が生んだ消極性は、もう制度は無いのだから脱却していいのではないか。

こんな内容の文章です。

百年前に書かれた古賀先生の文章は、歴史を冷静に観ながらも、長崎人への愛情にあふれています。そしてこの文章は、21世紀を生きる私たちへのエールのようにも読めます。

人情の厚さは、今も私たち長崎人の中にあります。道で地図を広げている修学旅行生や旅行客を見ると「どこに行きたかと?」と声を掛けたくなるのは、まさしくその証です。交流都市としてこれからも多くの人を迎えようとするまちづくりは、こういうおもてなしの気質を活かす方向性です。

一方、私たちは今こそ積極性を身に付ける時を迎えています。大きな変化の時代を迎えている今、自ら変化を創り出す積極的な姿勢が求められているからです。新しいあり方に向けて挑戦する人たちを応援することが大切です。それは、古賀先生が提唱したように「人情に厚く」「積極的な」長崎人気質を育むことにもつながるのだと思います。

古賀十二郎先生
長崎歴史文化博物館蔵